

## 20231030 「6年：服の力プロジェクト」今週まで！

前回は、「ファストファッション」を通して、サプライチェーンやエシカルについて考えました。今回は、今6年生が取り組んでいる「服の力プロジェクト」を通して、世界の難民問題について考えてみたいと思います。

皆さんもニュースでご存じのとおり、今世界では、悲しい争いがいたるところで起こっています。イスラエルのガザでは、この争いで亡くなった方が7000人を超えたと報道されました。そして、住む家を奪われ、町から逃げなければならなくなった人の数は、100万人を超えたと報道されています。これは、小平市に住む人の5倍を優に超える数です。このガザ地区は、地域外と自由に行き来できません。ガザ北部から逃げてきた人々は南部の人たちの生活圏を圧迫します。そして、この南部地域にも攻撃が加えられ始めました。人々は、逃げた先で、どう生活していけばいいのでしょうか。家も水も食べ物もトイレもどうしたらいいのでしょうか。

このように、争いで住む場所を奪われ、命からがら逃げてきた人たちのことを「難民」と呼びますが、今、世界中にこの難民は、1億840万人といます。難民が1億人を超えたのは去年です。10年前までは、5000万人もいなかったのです。これだけ平和が大切だ、地球を守ろうと世界中の人たちが力を合わせようとしているのに、この10年で難民の数は倍になってしまっているのです。そして、この難民の40%が18歳未満の子どもです。その子どもたちの中には、親を失ったり離れ離れになったりしている子も少なくありません。本来、親や地域から守られるべき子どもが、たった一人になることには、とても危険が潜んでいます。暴力、虐待、児童労働、教育の欠如、早婚など、様々な搾取と危険にさらされます。難民の子どもたちの中には、学校に通うこともできず妹や弟育てた

り、路上で働いたり、10代前半で結婚を強いられたりということも多く見られるということです。栄養失調で弱り痛々しくやせ細った乳幼児の姿も私たちは知っています。

こうした紛争の犠牲者であるこうした子どもたちに、服を届けようというのが、この「服の力プロジェクト」です。

私たちは、服を選んで着ています。服はただ着る物というだけでなく、着る人の気持ちを笑顔にする力があります。しかし、難民の人たちには、服を楽しむという余裕はありません。その日でいっぱい、いっぱいの苦しい日を送っています。その難民の皆にも服を楽しむ服の力を届けようという取組を、今6年生は行っています。毎朝、昇降口で6年生は、もう着なくなった服を集める活動をしています。この集めた服は、ユニクロを通じて世界の難民の人たちに送られます。

この6年生の服を集める活動は、今週で終わりです。もう時間がありません。今週の木曜日までですので、ぜひ各学級でも協力を呼び掛けてあげてください。